

令和2年度第2回千代田区地球温暖化対策推進懇談会（書面開催） 意見・質問と対応

(1)「千代田区地球温暖化対策地域推進計画2015」の改定について

No.	意見・質問		対応
	事項	内容	
1	目標設定	2050年までにCO2排出実質ゼロとの目標が達成される計画の推進を期待します	-
2	目標設定	2050年ゼロカーボンを目指しては、大変評価できると思います。	-
3	目標設定 対象ガス	2050年カーボンニュートラルを国として明確に宣言した今、2050年CO2排出量ゼロのまちを明確に見据えたことや、CO2だけでなく、フロンなどすべての温室効果ガスを対象にしたことなど、今回の改定の主要な方向性に賛成します。	-
4	目標設定 事業所への対策	大変よくできている計画だと思いました。削減目標値も意欲的ですし、事業所への対策も様々な工夫が網羅されていると思いました。	-
5	目標設定 コロナ禍における影響	「2050カーボンゼロ」の目標は、国や都との整合性を考えると、とても良いことだと思います。 一方、コロナ禍の絡みで、換気のために寒い冬でも窓を開けたり、ということが出てきていますので、その際の暖房の影響など、新たな要素への配慮(ex.)その分エネルギー消費が若干増える?など)も、うまく折り込めるといいと考えます。	コロナ禍のエネルギー消費への影響については、知見が定まっていない状況にあるため、現段階で計画へ反映することは難しい状況です。 計画期間中に対策や方向性が定まった段階で、区民や事業者向けの普及啓発の中で配慮事項をお伝えすることを検討してまいります。
6	目標設定の説明	少し気になったのは、2030年までの積み上げ型の目標設定と実現に向けた各主体の地に足をつけた対策と、2050年に向けて高い目標を掲げてバックキャストする際の革新的なイノベーションへの挑戦など、それぞれの目標設定の特徴や対応の違いなどを、もっと明確に描いていただけたほうが、状況が伝わるのではないかと思います。	本計画における2030年度の削減目標は区が地球温暖化対策条例に掲げたCO2削減対策目標を引き続き追求していく必要があること、2050年における将来像として掲げた「2050 ゼロカーボンちよだ」を達成するために、意欲的な対策目標を設定する必要があることなどを考慮し、設定をいたしました。 2050年における将来像「2050ゼロカーボンちよだ」の実現には、区や区民、事業者の努力に加え、抜本的排出削減を可能とする革新的技術の開発・普及などイノベーションによる解決を最大限に追求する必要があると言われております。そうした趣旨が分かりやすいよう、将来像の説明文について修正を検討いたします。
7	目標設定の説明	後段に記述はありますが、2030年は2050年からのバックキャストが基本理念として打ち出されるべきだと思います。ぜひ、その考え方をアピールしていただきたい。	本計画における2030年度の削減目標は区が地球温暖化対策条例に掲げたCO2削減対策目標を引き続き追及していく必要があること、2050年における将来像として掲げた「2050 ゼロカーボンちよだ」を達成するために、意欲的な対策目標を設定する必要があることなどを考慮し、設定をいたしました。 バックキャストの考え方については、計画事業の推進に合わせて周知してまいります。
8	事業や取組みごとの目標設定	トータル削減目標は示されているが、年度毎、事業や取組みの項目毎の目標はつくりたいのでしょうか。また、事業取組みに向けての予算建ては行わないのでしょうか。どの事業にどれだけ力を入れるのか、どれだけ費用をかけるのかなど意気込みが見えない。千代田区としてやれること、やらなければならないことをもう少し明確化できないのでしょうか。	計画書とは別に各施策について毎年度の実施数の目標値を設定しており、その数値を基に毎年度の進捗状況の評価してまいります。 また、各施策における実施数の想定に基づいて予算を確保し、予算と決算の検証については毎年度評価してまいります。
9	CO2排出量の推計	P.23 推計の前提が甘くないでしょうか？今後の都市計画を考慮すると(常盤橋タワーやその他再開発に伴う大型高層ビル群建設)、業務部門の拡大は相当なものと思料。	業務部門の将来推計の算定において、活動量に用いている業務床面積の予測は、平均的な傾向を表したものであり、算定結果に反映されております。ご意見を踏まえ、計画期間中も活動量の推移を注視してまいります。
10	対策・施策の削減量	P.64 Cap&Trade 都の割り当てが区の削減見込みよりはるかに多く見込まれるのですね。(感想)	-
11	計画のサブタイトル	どのようなまちにしたいのか、具体的なイメージを最初に描いたほうが、地域の方々が喜んで実践して下さると思います。例えば、「都市の脱炭素型地域循環共生圏」の実現をめざす・・・計画」というようなサブタイトルがあることを望みます。	本計画のめざす将来像「2050 ゼロカーボンちよだ」を計画の副題として表記することを検討します。
12	コロナ禍における影響	21年度については、未だコロナ禍の影響が色濃く残るものと想定されるので、エネルギー消費の推移について、感染防止の観点からの換気のための窓開けなどの影響を加味した計画となるようにすると良いと考えます。	コロナ禍のエネルギー消費への影響については、知見が定まっていない状況にあるため、現段階で計画へ反映することは難しい状況です。 計画期間中に対策や方向性が定まった段階で、区民や事業者向けの普及啓発の中で配慮事項をお伝えすることを検討してまいります。
13	業務部門への対策	千代田区は、資料中の円グラフでもあったように業務部門の割合が大きく、ここが施策推進の壁になりやすいと思われ、啓発もさることながら、キメ細かく指導し、一緒になって考えていこう、といったスタンスで取り組んでいただけると良いと存じます。	区の地域特性として業務部門への対策が重要であり、かつ単独での取組みに課題が多いと考えられる中小事業者に対しての支援が重要であると認識しております。本計画の施策の検討においては、その観点を踏まえ、計画期間中においても事業者の取組み状況や施策の実施状況を把握しつつ、適切な施策の検討と実施を行ってまいります。

14	事業者や家庭における具体策	目標設定の数値の出し方や、千代田区の状況の特性など、大変丁寧に描いていただきわかりやすいのですが、80%を超える事業者の取るべき具体策や、家庭の具体的かつ効果的な施策などが、もう少し明確に描いてあるとわかりやすいのではないのでしょうか。	事業者や家庭に取り組んでいただきたい取組みにつきましては、「温暖化配慮行動指針」及び「低炭素型社会の形成に関する指針」として掲載させていただきました。計画期間中における普及啓発策の検討の中で、より具体的な取組みやその効果についてわかりやすい表現を検討してまいります。
15	区民への啓発・情報提供	区民に対して、さらなる啓発や情報提供の機会を設定する必要があります。	いただいたご意見を踏まえ、1-1-1環境保全意識周知、環境教育・環境学習の推進施策を実施してまいります。
16	区民への啓発	千代田区全体の排出CO2の総量を明記して、区民への情報として出せば区民の意識にも影響があると思います。 しかし区内の区民が出している割合は約5%なので、95%の部分の事業者の削減の方が重要なのが区民の正直な感想だし、住民の80%の集合住宅の住民は削減意識を持ってないと思います、生活分を半減しても全体では影響が見られない点からも、区民の関心をよぶ方法を考えるべきです。	区の地域特性として業務部門への対策が重要です。計画期間中は、区内のCO2排出量を定期的に公表するなど、区民の皆様に関心をもつていただくための工夫をしております。
17	スマートシティの強化	「スマートシティの強化」に対する意見 1. ウォークアブルシティの推進 車中心の道路の使い方から歩いて楽しめる道路の利用を促していく。また、シティサイクルの利便性を高める為にも駐輪場やサイクルポートを公有地はもちろん、民地に展開できるように、インセンティブを付与する。例えば、シェアサイクルのポートや駐輪場に供した土地の固定資産税を減免してもらうよう都に働きかけを行う。 2. 歩行空間の暑熱対策の提案 歩道上にドライミストとウォーターステーションをパッケージで推進する。それによって、歩いている途中でマイペットボトルに水を補給できる。 3. デザイン性の高いマイペットボトルの提案 デザイン性に優れたマイペットボトルに千代田区内のエコに関心のある企業のロゴやエコへの取り組みのメッセージを入れて配る。使い捨てペットボトルを減らしていく。また、エコをファッションにしていける。	千代田区では交通量も多いため、交通の利便性を維持しつつ歩行者の満足度を向上させる取組みが重要であると考えております。コミュニティサイクルについては、更なるポートの充実や利用促進のため、ポートや駐輪場の取扱いについて関連部署と連携して検討を行ってまいります。 歩行空間の暑熱対策については、いただいたご意見を踏まえ、検討してまいります。 ペットボトルなどの使い捨てプラスチックの削減は重要な課題であり、民間事業者等との連携も含め、効果的な取組みを検討していきたいと考えております。 いただいたご意見も踏まえ、区域全体のスマートシティ化に取り組んでまいります。
18	ヒートアイランド対策	P.46、47 ヒートアイランド対策 道路舗装の工夫(被覆対策)ではヒートアイランド対策にはなり得ない研究結果も出ておりますし、千代田区の面積の12%の皇居からの涼の道との関連性で、街路樹と樹木の役割が重要視された対策が明記されて無い点。 緑陰の活用が道路温度を下げ、歩行者への熱量削減につながる事が考慮された様子が見えない点と、区民との実感との乖離が感じられるから区民への説明不足にも思えます。	道路における緑化は、「緑化指導・緑化推進」に含まれております。街路樹については、千代田区道路整備方針に基づき、街路樹の役割(景観、生活環境、緑陰等)を活かし、歩行環境の快適化に努めることとしています。
19	ヒートアイランド対策の位置付け	ヒートアイランド対策は、適応策にも関係していますし、別途策定されているヒートアイランド対策計画もありますので、少し整理が必要ではないのでしょうか。	ご指摘の通り、ヒートアイランド対策は適応策とも関連するものと意識しており、適応計画にも関連の記載をしております。ヒートアイランド対策計画については、同計画改定検討の中で、その位置づけについて検討してまいります。
20	公用車への電気自動車の導入	(資料1)2-3水素エネルギーの活用の促進 ◇公用車への水素自動車導入推進 ☆ここに電気エネルギー・電気自動車の導入推進も入れたほうが良いと思います。	公用車への電気自動車等の導入については、1-1「地球温暖化対策行動の推進」における「区の率先行動」として、電気自動車等のクリーンエネルギー自動車の導入推進を行ってまいります。
21	ZEBモデル施設の設置	現行計画の基本方針4・4-1・24ネット・ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)モデル施設の設置につきまして、現況を知りたいのですが？	ZEBモデル施設の設置につきましては、令和元年度に基本構想の策定を行ったところです。今後、他の行政需要との関係を整理することとしております。
22	ZEB・ZEHの推進	千代田区の大きな特徴は建築物、特に業務建築物、集合住宅、都市型中小ビルが多いことだと思います。こうした「建築物の街」の特徴を生かして計画も立てられていると思いますが、一点、ZEB,ZEHに対する推進姿勢が示されていないのは課題と思います。 是非新築の建築物、マンション等において、ZEBが標準となるような促進策をすすめていただきたい。特にZEBは公共建築物におけるその促進が期待されています。区施設が新設するときは必ずZEB化の検討を行い、ZEBファミリーの一部に食い込めるような努力をお願いしたいです。(標準仕様にするなど) ZEHについては、民間マンション建築主等に向けて、その価値をアピールするなどの働きかけも必要と思います。ZEBやZEHへの投資は長期的に優良で価値のある建築ストックを作り出すものですし、千代田区は適地と言えると思います。	建築物の省エネ対策について、千代田区の地域特性から特に重要な課題であると認識しております。省エネ技術の進展などの状況の変化に合わせ、省エネ目標の見直しなどにより、ZEB・ZEHを含めた高いレベルの省エネ建築の普及をめざす旨を計画案に記載いたします。また、マンションについては、ZEHを含めた省エネルギー型マンションの効果的な普及促進策を検討してまいります。 また、区有施設については、現在、新築の際に省エネ基準よりも35%以上省エネとすることを必須としておりますが、今後はZEB Ready水準の達成をめざすことも重要であると認識しております。区の実行計画(事務事業編)の改定に合わせて検討してまいります。
23	地域版ESG投資の仕組み	千代田区にはメガバンク本社もありますが、信用金庫等の支店も多くあると思います。温暖化対策を実施している地域の事業者へ、積極的に融資を行うなど地域版ESG投資の仕組みを支援されたいかがでしょうか。	いただいたご意見を踏まえ、国や東京都、他自治体におけるESG投資の促進に係る議論の動向も考慮しながら、温暖化対策を実施している地域の事業者の取組みを支援できるような仕組みを検討してまいります。

24	他部署・東京都との連携	千代田区の脱炭素化を進めるにあたり、環境分野だけでは対応できない施策が多々あると思います。例えば、未利用エネルギーの活用による地域冷暖システムや熱供給などのインフラ整備は、街づくりや都市計画課が積極的に推進しなければ進まないものであり、総合振興計画との整合性をとり、全庁的に取り組んで欲しいと思います。さらに、レジリエンスな街づくりについては、下水道の整備はとても重要だと思います。東京都との連携により、下水道のメンテやインフラ整備を進めるべきかと思っています。	庁内の他部門及び東京都や国との連携は計画上の施策を実施する上で重要であると認識しております。本計画においても、基本方針4において「協働による温暖化対策の推進」を掲げており、庁内や東京都、国との連携を強化してまいります。東京都との連携については、下水道の整備などに加え、水素エネルギーの活用やヒートアイランド対策、フロン対策等において都との連携を強化していきます。
25	区の実践	P.49 6 区民や事業者の地球温暖化対策を促進するための指針 千代田区行政だけが除外されている様に見えます。区の行政施策も区民事業者と同列だと思えます。区の事業も地球温暖化対策に規制されるべきです。区の事業だから除外するのは、行政は間違いを起こさないとは区民の実感では思えない点が、過去に多く見られるからです。	本計画では区の率先行動に触れていますが、区の事務事業に係る地球温暖化対策については、別途、「千代田区地球温暖化対策第4次実行計画(事務事業編)」を策定し、削減目標の設定と取組みの推進を行っております。当該計画を着実に推進することにより、区におけるCO2削減を進めてまいります。
26	区の実践	P.42 4 区の率先行動では区内の事業所への働きかけとの整合性が有るのか？ 千代田区地球温暖化対策条例 第二条 (4)では事業所から区は除外されております。千代田区も職員数は1,000名はおりますし、事業委託している非正規の方も多いため、区内の事業所と同じ対策が必要だと思っておりますので、区の率先行動も区内の事業所と同じと思っております。	本計画では区の率先行動に触れていますが、区の事務事業に係る地球温暖化対策については、別途、「千代田区地球温暖化対策第4次実行計画(事務事業編)」を策定し、削減目標の設定と取組みの推進を行っております。当該計画を着実に推進することにより、区におけるCO2削減を進めてまいります。
27	文章の整理	全体的に同じ文章が随所に見れます。整理されるといいかと思えます。	計画の文章表現について再度見直しを行います。
28	「低炭素」の文言	低炭素という言葉と脱炭素という言葉が混在しているようです。脱炭素という言葉が主流にしたらいいかでしょうか。	地球温暖化を取り巻く環境を踏まえ、「脱炭素」という表現を基本として記載いたします。
29	助成件数の表記	資料2 P.36(平成29年度～令和元年度の実績)の表の年度について助成件数の記載をなぜ後年度からにしてあるのですか？P.37も同様です。	計画における実績の記載について、旧年度から順になるよう記載を修正いたします。
30	森林整備事業の実績	P.40 地方との連携による森林整備事業 実績面積は令和元年度実績なのに、二酸化炭素吸収量は数年度の累計です。その効果が千代田区全体の発生二酸化炭素と相殺した割合が見えない点。	森林整備事業における整備面積については、単年度の実績が分かるように年度ごとに実績を記載しておりますが、参考に累計の整備面積を併記します。二酸化炭素吸収量については、国の算定方法に従い、複数年の累計により評価する方法により記載しております。また、区域施策編の計画については、区域内のみの温室効果ガスの排出量及び吸収量を記載することとされておりますので、区域内の二酸化炭素排出量から区域外における森林整備による二酸化炭素吸収量を差し引かず、別途吸収量を表記する形で公表しております。

(2) (仮称)「千代田区気候変動適応計画2021」の策定について

No.	意見・質問		対応
	事項	内容	
1	計画の方向性	現状の評価と対策など、大変丁寧に検討されており、全体的な方向性には賛同します。	—
2	子ども施設への日除けの設置	P.33「子ども施設への日除けの設置」について体育科の授業など、屋外運動を行う小中学校の校庭にも遮熱性のある日除けの設置を対策・取組内容に加える。	小中学校への設置も検討することから、「保育施設や学校等の子ども施設に遮熱性の日除けを設置する」と修正いたします。
3	クールオアシス、給水スポットの設置	千代田区も夏暑いので、クールスポットは涼しい場所(木陰や公園)ですが、公共施設の活用や企業との連携によるクールオアシスや給水スポットの設置が望まれます。	計画素案P.32に掲載している「ひと涼みスポット」では、冷房の効いた公共施設や民間の施設のスペースを活用し、休憩や水分補給により熱中症の予防や正しい知識の普及を図っております。
4	普及啓発の手法	P.32 普及啓発に、SNS活用やDXの導入はどうか？企業はCOVID19対応で相当テレワークのノウハウを学びました。災害や熱中時の外出規制対応には、コロナ禍で培った先端技術を活用した施策が役に立つのではないのでしょうか。	区ではSNSを活用した情報提供を行っていますが、ご提案の趣旨を踏まえ、より有効な普及啓発を検討してまいります。
5	区民への周知	今後のことになってと思いますが、この計画に基づき区民がやること、やらなければならないことを抜き出し、区民への周知をお願いしたい。	計画の概要版や計画期間中に作成する行動指針等により区民等へ具体的な行動に関する情報を提供してまいります。
6	行動指針の策定	緩和策について区民の取組指針が作られているが、適応策についても取組指針があつてしかるべきではないか。 区民側からすると緩和策や適応策、各分野で分けるのではなく、一本化した方が情報が到達しやすいかもしれない。どのような形が効果的なのかを検討し、長期的に考えてほしい。	計画期間中に普及啓発として緩和策と適応策を一体とした取組指針を作成し、区民等へ周知してまいります。

7	影響・対策の内容	☆下記を追記したほうが良いと思います。 (資料3) <影響が考えられる分野> 【自然災害】に「台風時などのビル風による突風被害が発生する懸念が高まっている。」 【生活】に「寒暖差の大きさによる自律神経などへの影響が心配される」 <施策体系と主な対策> 2-3自然生態系に関する対策の推進 ◇河川・公園等の維持管理に「拡大」	●計画素案P.29に現況と将来予測される影響として、建築物が密集している地域では、ビル風の影響もあり、強風の危険性をさらに高める可能性があるという内容を記載しています。 ●熱ストレスの増大により、だるさや疲労感が増すと予測がされているため、追記いたします。 ●緑化推進要綱に基づき、公共施設や民間施設における緑化も推進してまいります。
8	台風の大型化、短時間降水量の激甚化に関する記載	気候の変化を見る際、降水量に関しては長期変化のみを考慮し、経年変化があまりないとしています。けれど、台風の大型化や、短時間降水量の激甚化などの変化を脅威と感じている市民は多く、その辺の記載や配慮が必要ではないでしょうか。	短時間強雨及び台風の長期変化傾向に関する記述を追加いたします。なお、現況や将来予測される影響については、計画素案P.29に集中豪雨の増加や台風の強度が増すことを記載しています。
9	下水道整備	東京都と連携し、下水道整備が必要だと思います。	東京都が実施する下水道整備について、引き続き連携してまいります。
10	自然生態系分野の位置付け	千代田区が優先的に取り組む分野・項目の記載で、国が示した7分野の中から「自然生態系」分野を除外しています。都内の公園で数年前にヒトスジシマカが媒介するマラリアの発生が確認され、大規模な消毒作業が行われたのは記憶に新しいことです。また、現在世界の課題となっている新型コロナウイルス感染症も、温暖化により野生生物の生息環境が変化しているのではとも言われています。「自然生態系」分野も検討組上に残してはいかがでしょうか。	区における自然生態系への影響が現時点では他の分野と比較して不明確なため、優先すべき分野から除外しています。一方で、ヒトスジシマカ等による感染症への対応は区民等の生命に関わる重大な事項であることから、「健康」の分野の施策「感染症対策の推進」において適応策に取り組んでまいります。
11	猛暑日・真夏日・夏日・熱帯夜等の表記	真夏日・夏日・猛暑日・熱帯夜等の記載において、その順番に何か意味があるのでしょうか。	猛暑日(日最高気温35℃以上)、真夏日(〃30℃以上)、夏日(〃25℃以上)、熱帯夜(日最低気温25℃以上)の順番に修正いたします。

(3) 千代田区温暖化配慮行動計画書制度における表彰事業所について

No.	意見・質問		対応
	事項	内容	
1	取組みの発信	表彰制度自体は、各事業者の意識向上、啓発推進の観点から大変有意義なことと思います。あと、せっかくの取組なので、区民、また対外的にお知らせすることは、見る側にとっても、また当該事業所にとっても名誉なことと思うので、区広報での内容の紹介など、いろいろと工夫できると良いと思います。	各事業所の取組み内容の紹介・周知について、現在区広報やHPへの掲載及び事例集の作成・配布を実施しているところですが、今後もより波及性の高い周知方法を検討してまいります。
2	取組みの発信	素晴らしい取組みだと感じていますし、このような事業所が集積する千代田区のポテンシャルを感じました。このポテンシャルを、千代田区から全国に発信していただきたいと思っています。	各事業所の取組み内容の紹介・周知について、現在区広報やHPへの掲載及び事例集の作成・配布を実施しているところですが、今後もより波及性の高い周知方法を検討してまいります。
3	取組みの発信	企業の積極的な取組を報告書で提出を求めだけでなく、先進的な企業を表彰するのは意欲醸成にとっても効果的な事業と考えます。なお、入賞事例のような具体的な情報をHPで公表するとありますが、区民や区内事業者対象の発表機会を設けるなど広く伝える工夫をして、多くの企業で取組が広がるようにしていただきたいと考えます。	区民や区内事業者等に対してより広く表彰事例を周知できるような手法を検討してまいります。
4	インセンティブの付与 取組の発信	報告書の提出件数が義務化されていても提出してこない事業者があるようです。報告された情報が投資家や消費者に活用されるようなインセンティブが必要であり、提出を促す仕掛けが重要かと思えます。さらに表彰対象者が多く出てくるよう、広報の方法や表彰のメリットについて改善を検討されたいのではないかと思います。	報告書の提出について、提出をしないことに対する対応ではなく、提出をすることで事業所のメリットに繋がるような仕掛けを検討してまいります。 また、事業所が日々取り組む環境配慮行動をより詳細に報告してもらえるような報告書の様式を作成し、また、依頼方法や広報方法も併せて検討してまいります。
5	任意提出事業所	任意提出事業所の依頼数に対する提出件数が少ない。「計画書兼報告書の提出について努力義務とする」などで啓発が必要ではないか。	任意提出事業所の提出件数の増加について、提出件数が増加するような周知及び啓発等を検討してまいります。
6	選定基準	今後の選定基準を柔軟にすることの検討が必要と考えます。	表彰候補事業所の柔軟な選定方法について検討してまいります。
7	対象の拡大	町会などにも活動により表彰などをした方が住民なども興味をもち、このような活動が行われていることが広く知られると思います。	本制度は区内の事業所の環境配慮行動を対象にしたものでありますが、町会等事業所以外の団体の取組みも取り上げて周知できる方法も検討してまいります。

(4) 「千代田区ヒートアイランド対策計画」の見直しについて

No.	意見・質問		対応
	事項	内容	
1	まち歩き体験の実施	暑い日のまち歩き体験を実施してみてもいいでしょうか。	ご意見の趣旨を踏まえ、検討してまいります。
2	検討の方向性	今もうすでにおきている現象への対策をしていくのか、ヒートアイランドを少しでも軽減するための対策を検討するのか、もちろん、どちらも検討されると思いますが、具体的に身近なところに視点を置いての検討をお願いします。	ご意見の趣旨を踏まえ、検討してまいります。

3	検討体制	<p>ヒートアイランド現象の調査をして対策計画を見直すことは、気温上昇が他の地域より大きい都心区として、必要な分野と考えます。</p> <p>ただし、会議体が増えるとその進行にかかる職員の負担が大きくなると考えられ、たとえば適応計画に参加する専門家にご意見をいただきながら進めるなど、適切な方法を検討いただいてもいいのではないかと考えます。</p>	効果的・効率的に検討できる体制を整備してまいります。
4	ヒートアイランド対策計画の位置付け	ヒートアイランド対策計画は、適応計画の中に入れてもいいのではないのでしょうか。	ヒートアイランド対策には適応策と共通する事項が多いと認識しております。計画の統合については、ご意見の趣旨を踏まえ、慎重に検討してまいります。
5	適応策との関係性 インフラ改修とあわせた対策	<p>ヒートアイランド対策については、適応策と一体として、計画をつくるということも併せてご検討いただくといいと思う。</p> <p>また、区や都、国のインフラの改修に合わせて、対策を組み込んでいくことも重要と考えます。</p>	ヒートアイランド対策には適応策と共通する事項が多いと認識しております。計画の統合については、ご意見の趣旨を踏まえ、慎重に検討してまいります。また、インフラの改修に組み込むことに関して検討いたします。
6	先進的な取組みの実施	「千代田区気候変動適応計画2021」と合わせて、首都東京の都心としての先進的な取組みが実施されることを期待しています。	—

その他(全体を通して)

No.	意見・質問		対応
	事項	内容	
1	元号・西暦、単位の統一	<p>関心がある方は多数おられと思いますが、それ以外の方へのアプローチに対しての説明と関心をもってもらうためには、見やすく分かり易い資料が必要だと思います。</p> <p>しかし総じて元号と西暦の対比と、混在が多く見られるので実感としての理解不足と興味を持つ事が難しいと思います。</p> <p>また統計の資料でも以前からの指摘通りに、単位の統一性が無いので統計上の統計を参考資料として見る事が難しいと思います。</p>	<p>元号と西暦の統一、統計資料における単位の統一を図ります。</p>
2	区民への周知	<p>大企業の多い千代田区ですが、中小企業も多く、住民の多くが中小企業を営んでいる地域です。</p> <p>温暖化対策に関しては、まだまだ一般住民などに知られていないことが1番の問題点です。国家規模では知られていても、千代田区でどのようなことが問題になり、このような会議をして、このような尽力がなされ、表彰されている企業が有ることを、知らない町会、地域活動家がたくさんいますし、住民などにも周知されていないと思われます。</p> <p>防災に関しては最近高まってきていて、活動も増えています。防災と関係性を持たせて、一般住民にも温暖化対策の活動を広めていくことが可能と思います。地域連携部署を設けていただきましたら良いかと存じます。</p>	<p>ご指摘のように防災など区民の関心の高い事項と関連付けて周知するなど、わかりやすい情報発信や効果的な周知方法を検討してまいります。</p> <p>また、区民の温暖化対策に関する取組みを効果的に推進できる手法を検討してまいります。</p>